Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Development and validation of oral bleeding risk scoring system (OBRS) for predicting post-tooth-extraction bleeding in patients undergoing treatment with warfarin: A single centre study

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福澤, 智 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032516

主 論 文 の 要 約

Development and validation of oral bleeding risk scoring system (OBRS) for predicting post-tooth-extraction bleeding in patients undergoing treatment with warfarin: A single centre study.

ワルファリン内服患者の抜歯後出血の新規出血リスクスコアの開発：単施設での検討

東京女子医科大学歯科口腔外科学教室
（指導：安藤智博教授）㊞
福澤　智

Tokyo Women's Medical University Journal. Volume 3, 1-10, 2019
に掲載

【目　的】

ワルファリンによる抗凝固療法を行っている患者における抜歯後出血に対するマネジメントは重要であるが，現状ではリスクを事前に評価するスコアなどはない．ワルファリン内服患者での抜歯後出血が予想することは臨床的に不可欠であり，簡便なリスク評価方法の確立は重要と考える．今回われわれは，抜歯後出血に対する新規リスクスコアを開発したのでその概要を報告する．

【対象および方法】

対象は東京女子医科大学病院歯科口腔外科に，2013 年 4 月から 2016 年 3 月までに抜歯目的に入院し，クリニカルパスで管理を行ったワルファリン内服患者である．除外基準を 20 歳未満，血液疾患患者，抜歯日での採血が PT-INR が 3.5 以上として対象症例は 274 例とした．前半 2 年間を derivation cohort，後半 1 年間を validation cohort として，抜歯後出血のリスク因子を同定し新たな出血リスクスコアを開発し，スコアの性能の検証を行った．また，従来の指標であった PT-INR と HAS-BLED スコアと比較を行い，信頼性の検討を行った．統計解析方法は jmp pro13 および SPSS を用いた．

【結　果】

多変量解析し抜歯後出血因子は，PT-INR，抗血小板薬やワルファリン作用増強薬剤の内服，局所切開の３因子であった．抜歯後出血に関与したリスク因子について推定値比を算定して計算式を確立した.計算式をPT-INR値×1.9+薬物（１点）+切開1.23とした式(式１)と簡易化したPT-INR値×2+薬物（１点）+切開(1点)の式(式２)で比較した.式１と式２でROC曲線のArea Under Curve（以下AUC）は式１：0.7707，式２：0.7706で両者に有意差を認めなかった.臨床的に簡便に使用できることから、この式２をOral Bleeding Risk Score（以下OBRS）とした。このOBRSとHAS-BLEDスコア，PT-INRでの比較を行った．各ROC曲線でのAUCは，OBRS：0.770，HAS-BLEDスコア：0.611，PT-INRでは，0.686であった．よってOBRSはHAS-BLEDスコア，PT-INRと比較し有意に抜歯後出血を予測しうる可能性が示唆された．カットオフ値は5.08でvalidation cohortでの検証もROC曲線でAUC0.95とスコアとして十分な信頼性があることが示された.

【考　察】

抜歯後出血の因子での報告は抗血小板薬の内服の併用などでリスクが高くなるとの報告があるが本研究でも同様の結果であった．リスクスコアが高い症例では十分な止血管理ができる環境での管理を行う必要があると考えられ，また低い症例では外来診療での抜歯が十分に可能であることが示唆された.

【結　論】

今回開発したリスクスコアはワーファリン内服患者での抜歯後出血の予測診断に有効であると考えられた.